



東海テレビドキュメンタリー劇場第15弾



©東海テレビ放送
95分
日本
2023年
東風
配給協力
東海テレビ放送
製作・配給
足立拓朗
監督
土方宏史
阿武野勝彦
プロデューサー
高見順
編集
宿野祐
音響効果
清水雅子
TK
栗栖睦巳
音声
村田敦崇
撮影
岡田こずえ
音楽プロデューサー
和田貴史
音楽



断らない、 ER

tokaidoc.com/kodo





救命救急の砦で、 いま何が起きているのか？ 観る者を近未来のカオスへと放り込む 迫真のドキュメント

全国屈指の荷揚げ量を誇る名古屋港から北へ3km地点にある名古屋^{えきさいかい}掖済会病院。そのER（救命救急センター）は、救急車の受け入れ台数が年間1万台と愛知県内随一だ。24時間365日、さまざまな患者が運び込まれてくる。耳の中に虫がいると泣き叫ぶ子ども、脚に釘が刺さった大工職人、自死を図った人…。“断らない救急”をモットーに身寄りのないお年寄りから生活困窮者まで誰でも受け入れる。医師は言う。「救急で何でも診るの“何でも”には、社会的な問題も含まれる」と。しかし、新型コロナウイルスのパンデミックで、救急車は連日過去最多を更新。他の病院に断られた患者が押し寄せ、みるみるベッドが埋まっていく…。

かつてない窮地に立たされたERのありのままを映し出すのは東海テレビのクルー。監督は本作が映画初挑戦の足立拓朗。プロデュースを手がけたのは『ヤクザと憲法』『さよならテレビ』の阿武野勝彦と土方宏史。医師たちは、ERの仕事を“究極の社会奉仕”と捉え、日々全力を尽くしている。一方で、外科や内科のように大学病院に支えられた医局制度がない救急科を志望する医師は少ない。ナレーションを排した映像が、映画を観る私たちを地域医療の近未来のカオスへと放り込む。

夜勤にプレッシャーにクレーム対応。救急の現場はわたしたちの報道フロアと同じ匂いがする。でも彼らは辞めない。なんでだろう？

「断らない」というムチャなお題を掲げた病院の救命救急センターにカメラを入れてみたら、組織にとって大切なもの、世の中から必要な存在でいるために、絶対に手放してはいけなかったものが見えました。

—— 土方宏史（プロデューサー）



tokaidoc.com/kodo
  [tokaidocmovie](https://www.instagram.com/tokaidocmovie)
 [tokaidoc.movie](https://www.facebook.com/tokaidoc.movie)

2024年1月27日(土)より

全国共通特別鑑賞券¥1500(税込)発売中!!



ポレポレ東中野

03 3371 0088 pole2.co.jp
 JR東中野駅西口改札北側出口より徒歩1分
 都営大江戸線A1出口より徒歩1分



※事前購入可能／詳細は劇場HPにて